

## 北九州の工業ガス販売店、ソノダ

### クラウドコンピューティング容器管理導入で業務効率の改善、保安の質向上に手応え



園田社長

北九州市の工業ガス販売店、ソノダ（園田昌徳社長、北九州市八幡西区上上津役、資本金2千万円）では、昨年末クラウドコンピューティングを利用した容器管理システムを導入、業務効率の改善、保安管理の質向上に手応えを感じているという。

同社は、今年創業50周年を迎えた工業ガス販売店。売上高約3億円（11年8月決算）のうち、一般工業用ガスが全体の2/3を占め、残りが家庭用プロパン、工事関連という事業構成である。主なユーザーは、鉄の街、北九州らしく鉄鋼関連を中心に病院、大学・研究関連などとなっている。

同社の容器管理は、これまでも手書きで対応してきた。3年前の09年1月に社長業を引き継いだ園田氏は、コンプライアンスの観点からコンピュータによる容器管理システム導入の必要性を感じていた。ただサーバーやソフトなどから成るシステムを自前で揃えるとなると、数百万円規模となることから、投資に踏み切れないでいた。そこにクラウドコンピューティング容器管理システムの存在を知り導入検討に入ったのである。

クラウドコンピューティングとは、インターネットによる通信環境を通じて、容器管理に必要なソフトやデータベースの提供をシステム会社から受けるというもの。利用者は、パソコン、インターネット環境、ハンディターミナル、出力用のプリンターなどを揃えれば、ソフトやサーバーを自前で用意しなくてもシステムを運用できる。

システム会社がバージョンアップを行なうため利用者は最新のシステムを利用できるという利点もある。同社は、岩谷情報システムが開発したクラウド容器管理システム「瓶豪」を昨年11月に導入。初期投資はハンディと車載プリンター1セットが約30万円（×台数）程度である。パソコンは現在使用中のものをそのまま使用した。後は月々2万円の利用料で容器管理を実施している。

コンピュータ容器管理の導入効果として、同社が挙げるのは、業務効率の改善である。手書き時代にあった書き損じや未入力といったミスが無くなったことに加え、容器の移動データがエクセルで管理できる、入出荷時のデータ入力が必要になるという利便性の向上がある。さらに運用上にも不安な点があっても、システ

ム会社がりモート操作でトラブルを解決してくれるなどアフターサービスが充実している点にも満足しているという。容器延滞料の徴収についても、「正直、これまでの容器管理が不完全だったこともありユーザに対して申し出さえていかなかった。コンピュータ管理で正確かつスピーディに帳票を提示することで、延滞料の交渉にも回ることが出てくる。ユーザの反応も上々で、了解いただけている」と園田社長は語る。

コンピュータ容器管理が、コスト改善にどれだけ貢献しているか、数字で表すのは難しいが、園田社長は「高圧ガスを取り扱うものとして最も重要な保安のレベルアップが図れることが何よりの利点。我々レベルの規模では、導入したくとも出来なかったシステムが、手軽に活用しているだけで、クラウドを活用しているのは高圧ガスを取り扱うものとして大きなメリットになる」とその効果を述べる。

北九州地域では、今年3月以降、RFタグを取り付けた高圧ガスシリンダーの運用も始まった。同社にもRFタグ付き容器が流通してくるが、園田社長は「バーコード容器でも、RFタグ容器でも同一のハンディで読み取り作業には、問題ないですね」という。携帯電話を使いこなす世代にとっては、パソコンやハンディによる容器管理の方が馴染みやすいというのが実情なのであろう。

手書き時代から一足飛びに最先端のRFタグまで利用できるというのがITの最大の利点でもあるわけだが、クラウドによってコンピュータ容器管理が中小販売店にまで浸透していくか、今後も注目されるのである。